

コード No. 18631

**Anti-Human
Prion Protein (C) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

- はじめに : プリオンタンパク質 (PrP) は未だその機能の全容は明らかにされていません。正常細胞質に存在するプリオンタンパク質 (PrP^c) の他に感染型のプリオンタンパク質 (PrP^{Sc}) が存在しますが、両者のアミノ酸配列に変化はなく、翻訳後修飾もなく、その相違はタンパク質構造変化の違いによるものであると考えられています。PrP^{Sc} は伝播海綿状脳症 (Transmissible spongiform encephalopathies (TSEs)) に感染している動物の脳 (ヒツジスクレイピー、家畜の海綿状脳症 (BSE)、ヒトのクロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) など) にその発現が強く認められています。感染性がありながら既知の病原体ではなくタンパク質の変化により発病するものとして、一般的にプリオン病として注目されています。
- 免疫抗原 : Human Prion Protein の C 端部分合成ペプチド (CITQYERESQAYYQR)
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定
: 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 1~2µg/mL にて使用可能
(ホルマリン固定・パラフィン包埋切片、オートクレーブ処理 (1mM HCl 溶液中 121°C, 10 分))
: ウェスタン・ブロッティング 0.5~1 µg/mL にて使用可能
- 特異性 : ウェスタン・ブロッティングにて確認
(本試験は、東北大学大学院医学研究科・神経科学・北本哲之博士のご厚意による)
- 交差性 : 抗原に用いた合成ペプチドの配列は、チンパンジー、ゴリラ、マウス、ラットと 100%の相同性がありますが、これら動物の試料を用いた解析は行っていない。
- 参考文献 : 1. Kitamoto T, Shin RW, Doh-ura K, Tomokane N, Miyazono M, Muramoto T, Tateishi J. Abnormal isoform of prion proteins accumulates in the synaptic structures of the central nervous system in patients with Creutzfeldt-Jakob disease. Am J Pathol. 1992 Jun;140(6):1285-94.